

元高砂市議 緑の党グリーンズジャパン会員

井奥まさきの市政ニュース

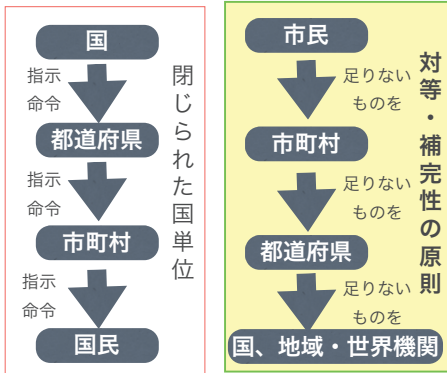
2013.10 (月刊+：10月号 通算 75号)

兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9
Tel 079-444-2343 Fax 444-2418
E-mail:iokuioku3@gmail.com
http://ioku3.sakura.ne.jp blog 新ブログも
ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥まさき

巻頭言

高砂市 = 一番近い政府だから市民ニーズに近い活動ができる！

緑の党の地方選挙に向けた資料より



従来（旧）の考え方

(そして未だ多くの政治家・行政の考え)

私たちの考え方

(2000年地方自治法改正でも一部採用)

私が地方自治体に興味を持ったのは「無所属市民派」と呼ばれる地方議員と20代で出会ったからです。従来型の「国が上、地方が下」ではなく、「中央政府と地方政府

は対等」という考えを持ち、地方の現場で市民と対話しながら、地方の現状をもとに国や世界の課題をニュースや街頭宣伝で提起しつづける活動に感動したのです。

理論面では、左の表のような考え方を元逗子市長の富野暉一郎さんや松下圭一さんらが唱えていました。「市民に身近な政府だからこそ、現場から遠く離れた東京で決定するより、市民ニーズに一番適切な活動ができる。」という信念を持っているのが先進自治体の実践といえます。

今の高砂市はまったく逆です。

元高砂市議 井奥まさき

国からはあらゆる政策に懇切丁寧に条例案や基準案、そして指導と称して法律の解釈や運用方法などが示されます。国の指導を丸ごと取り入れて工夫もしないで眠り込んでいるのが高砂市の現状です。2015年より始まる子ども・子育て3法の動きや福祉政策などでは「国の指導」より「市民の実態」を優先させ、先進事例を参考にしながら、時には国や県に現場に即して提言していくような動きが重要になります。理念のない登市長と取り巻き「何でも賛成」市議に任せては市民が不幸になります。

市民参加

今こそ「無作為抽出」方式で真の市民参加を

高砂市の審議会は改革をすべきです。まず公開状況です。国や県でも最近「会議日程の公開・資料の公開」は当たり前です。また、インターネット配信を行うケースも増えてきています。例えば国の子ども子育て会議はすべて録画で見ることができます。

傍聴人の権利も拡大しているのが通例です。資料は委員と同じものが配布されるのは当然。時には

傍聴人発言も許可されます。これは兵庫県のダム見直し検討委員会で実践されています。

そして、今最先端の審議会方式として注目されているのが「無作為抽出」選抜です。市内在住者から無作為で委員（候補）を選ぶ方式です。「自ら名乗り出てまでの発言は遠慮してしまうが、指名されたら一生懸命準備して発言する」という日本人一般の特性には

ピッタリの制度かと思います。名目市民参加から真の市民参加に変えるためには重要な制度です。

○先進施策③ 市民参加その1

- ・会議の日程や資料の事前公開、インターネット録画配信（例：国の子ども子育て会議など）
 - ・傍聴人に資料配布、発言を許可（例：県のダム見直し検討委員会など）
 - ・一括説明、一方的な質問と答弁ではなく、ワークショップ形式導入など
 - ・無作為抽出の市民が討論 など
- ▶「三鷹市 無作為抽出」で検索を

消費税

税の議論から逃げない でも消費税増税は「今」じゃないデシヨ

緑の党の政策紹介

緑の党は消費税をはじめとする「税負担」の議論からは逃げなません。今までの「高サービス、低負担→必然的に借金に頼る。経済成長すれば借金も返済できると見込んで借金を続ける。」という財政のあり方を見直すことは当然で

す。ここは財政に無責任な単なる増税反対派とは違います。

ただし、現在の消費税増税は「今じゃナイデシヨ」という意見です。①ムダをはぶく②不公正な税制の改革をする③消費税制度そのものの欠陥をなくす これらの条

件を整えた上でなおかつ、子育てや介護など必要なサービスを明らかにして増税議論を始めるべきという立場です。民主党政権時代の議論は間違いですし、安倍政権の「経済対策」とセットの実施は大失敗です。（この項つづく）

●今話題の消費税について、緑の党の政策を紹介します。

裁判員制度も検察審議会も「無作為抽出」方式といえます。偏らず、特に若い世代の参加を実現するには「無作為抽出」を積極的に取り入れるべきです。

■松下圭一さんは「自治体は変わるか」（岩波新書）など多数の地方政府論の古典的な名作があります。徹底した市民論者といえます。

■新電力はバラ色だけではないですが、「前例」に縛られている発想を転換するために導入検討が必要な作業。他にも別の政策にも役立ちます（エネルギー政策その2へ）

子育て日記 宿題は親も苦痛です…見守り作業がこんなにつらいとは…



毎日の「宿題」という苦しみ 子どもたちは二人とも小学校に

入り、送り迎えの苦労は半減しました。代わって毎夜子どもも親も苦しめるのが「宿題」です。算数や漢字のプリント、国語の本読みと毎日何かしらの宿題がありません。親子のふれあいを重視するようになったのか、昔より「親に聞いてもらってカードに記入する」という宿題も増えたように感じま

す。本読みはまあいいのですが、問題は計算カードです。

なんでそんな間違いを（絶句）

まず、娘が九九を習い始めた時、「四」の段くらいまでは順調だったのですが、「七」の段とかになると怪しくなり、詰まったり間違ったりするとこちらがイライラしてきます。二度ほど泣かせたことがありました。

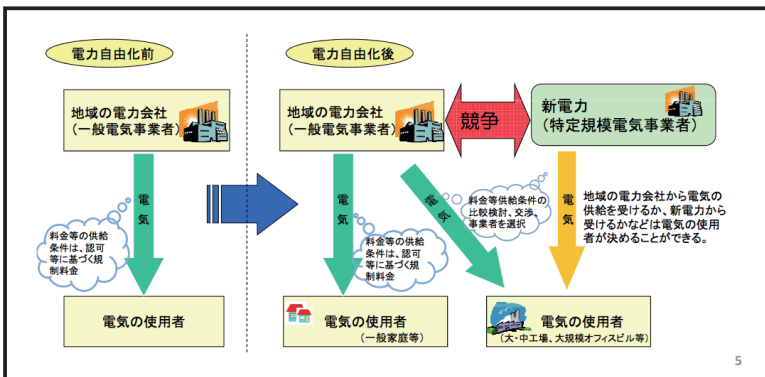
でも娘はまだ良かった！息子は「足し算引き算」でいきなり間違いを連発。私のイライラもピークに達します。「6足す3は…」考えた末に「8」と堂々といい、私

の顔を見て「いや7、うん、9だ」と正解まで探りつづけます。また、コソクにも計算カードの裏をこっそり見ようとして私ににらまれます。ストレス爆発。見守り作業がこんなにつらいとは。

まあゆっくり聞いてみたらとアドバイスされる

家庭教師の河田さんに相談しました。「ゆっくりと、なんで6+3が8になるか聞いてみたら。『お父さんには考えつかないなあ』とか言って」とアドバイスをくれました。要は時間をかけた粘り強い指導ってことですかね。はあ。

エネルギー 関西電力以外の電力会社と電気を売買する方法の検討を



で有名なのは大和郡山市です。他にも近くでは加東市も例があります。最近では東京都が

部の新電力をのぞき) 火力やガスなどの通常の発電です。逆に電力会社から安い電力を仕入れて差益を狙う場合もあるからです。ただ、地域電力会社依存→自由化による新電力導入議論→新電力の限界、節電政策充実へ→新規参入(例えば中部電力系)も含め新電力の再評価と刻々と動いている全国の流れの中、せめて高砂市も「実態調査」だけでもすべきでしょう。

地域電力(高砂市で言えば関西電力)以外から電力を調達する新電力(PPS)が電気代値上げの中で再度注目を浴びています。

もともと有名なのは東京都立川市です。競輪場の電気に導入し、26%もの経費節約につなげました。この例は「立川モデル」として各地で紹介されました。関西

「中部電力系会社」を新電力として契約をする方針を打ち出しました。電力会社の相次ぐ値上げ、そしてリスク分散を考えても新電力の導入を「検討」するのは当然といえます。もちろん、バラ色の話ばかりではありません。新電力=再生可能エネルギー100%というわけではなく、発電自体は(一

○先進施策④ エネルギー政策その1

- ・高砂市の全施設の電力資料状況、特にピーク時と最低使用の時期、関西電力との契約方法などを調査する
- ・ゴミ発電の売電なども含め、関西電力一本から複数の選択肢の検討を

▶「新電力 経済産業省」で検索を

お知らせ 「つなげよう高砂」は休刊し、市政提言と緑の党づくりを先行させます

いつも厳しくも適切なアドバイスをいただく方から『つなげよう高砂』はどうなったのか」と指摘がありました。「つなげよう高砂」は市民交流の場づくりを目指して創刊しました。市民活動の紹介などで高砂市に欠けている「人と人をつなげる」という

活動を新聞の形で行いたいとの意図です。13号まで発刊いたしましたが、発行資金の不足と私自身が「緑の党」づくりに力を注いだため、休刊状態になってしまいました。私、井奥以外の担い手不足もありました。私自身は当面は市政提言と「緑の党」づ

くり全力をあげたいと思っています。そこで、「つなげよう高砂」は休刊とし、新しい担い手などとの出会いがあれば復活させます。「つなげよう高砂」にいただいた応援に感謝し、引き続き「井奥まさきの市政ニュース」をよろしくお願ひします。

■プール入札の相次ぐ不調 背景には国の経済対策にのって欲張った無謀な工事量にもあると考えます。自民・民主を通じて国の「経済対策」はバラマキによる失敗が多い